

H28.1.8

# こころの玉手箱

新日鉄住金会長

宗岡 正二

5

自宅の居間に置いている

力(つとむ)れば必ず達す



最高意思決定機関の評議員会は当時、柔道界の男性のみ。都道府県の代表を中心とする約60人の大所帯だった。創立から50年以上を経て機能不全に陥り、ガバナンスの欠如は明らかだった。これを女性や外部有識者を一定数含む30人程度の組織に変え、新たに定年制・任期制を導入し、実質的な議論がなされ

2013年の春、柔道界に激震が走った。女子選手に対する暴力的指導、助成金の不正受給といった不祥事が発覚。国民の信頼は地に落ちた。全日本柔道連盟(全柔連)の執行部は総退陣を決め、後任探しが始まった。当時の全柔連会長から私に「良い人を推薦してほしい」と依頼があった。何人かに聞いたが、火中の栗を拾うとあって引き受ける方がおられなかった。すると8月初めに私自身に打診があった。家族や周囲は皆、大反対。だが亡き父が生きていたら「お前が役にたてるなら引き受ける」と言うだろう。柔道で育てられた者の恩返しと考へ、引き受けることにした。副会長を山下泰裕氏1人に、専務理事には東大柔道部で2年後輩だった元大阪府警本部長の近石康宏氏を起用し「変えるべきところは変え、変えてはならぬことは守り抜く」との方針で改革を始めた。

## 日本柔道の再建に尽くす

るようにした。加えて、コンプライアンス委員会も新設した。

昨年4月に内閣府より、以前とは見違えるような組織になったと評価いただいた。しかしながら、これらの改革は公益財団法人としてのあるべき姿を整えたに過ぎず、日本柔道の再建は、これからが正念場だ。競技面の強化をはじめ、競技人口減少の歯止めなど課題は山積している。全柔連と講道館という2つの公益財団法人を併存させ続けることの是非についても、関係者は考えなければならぬだろう。

柔道創始者の嘉納治五郎師範が終生取り組まれた柔道を通じた「人づくり」の精神は変えてはならない。30年ほど前、嘉納師範による「力(つとむ)れば必ず達す」の書を父から譲られた。「努力をすれば必ず何事も達成される」との意味である。

来週は陶芸家の三輪休雪氏です。